

### 第三者評価結果

事業所名：横浜茅ヶ崎保育園

#### A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-① 【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 全体的な計画は、児童憲章・児童福祉法・保育所保育指針などの趣旨をとらえ主任保育士が中心となり作成しています。保育理念は、「心豊かな子」です。理念に基づき、近隣に自然がある地域環境を活かした様々な活動を、年齢別に設定しています。年度末に計画を評価し検討しており、その結果を次年度計画に反映させています。職員は、入職時の新任研修にて法人の理念や保育方針など、法人の目指す方向を理解して保育に努めています。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-① 【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 園では、子どもが心地よく生活をするために、保育室の温度・湿度は活動の様子に合わせて担任・看護師が適切に調整しています。職員は、子どもが使用する設備や用具など点検し清潔で安全な環境を整えています。保育室は広々として机や遊具などは子どもの生活動線を考えて配置するなど工夫をしており、子どもが落ち着いて遊べる空間を作り、危険な場所には立ち入れないようゲートを設置し安全対策に努めています。</p>	
<p>A-1-(2)-② 【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 一人ひとりの発達や個人差を把握し、子ども主体の保育を心掛けています。クラスは複数担任制のため、毎日の5分間ミーティングで情報共有しており、月1回の職員会議では子どもの成長過程や様子を共有認識しています。職員は、子どもと接する時には声の大きさやトーンなども意識しており、優しく穏やかな声かけや、制止する言葉は用いない保育に努めています。保護者アンケートで、「子どものやりたいことに寄り添ってもらえる。」との声があり、一人ひとりの子どもと向き合った保育に取り組んでいます。</p>	
<p>A-1-(2)-③ 【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 基本的な生活習慣については、個々の成長に合わせて子どものできたところを認めて、できないところはさりげなく援助するよう心掛けています。洗面所には、うがい・手洗いのイラストを掲示しており、視覚からも基本的な生活習慣を身につけられるよう取り組んでいます。保護者とは、日々の連絡帳や送迎時のやり取りを通して、子どもの生活状況や生活リズムを情報共有し、子どもの状態に応じて活動と休息のバランスが保たれるよう配慮しています。保護者には、「ほけんだより」などで生活リズムを整えることの大切さについて周知を図っています。</p>	
<p>A-1-(2)-④ 【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 子どもが主体的に遊べるように、玩具は子どもが取り出しやすい場所に用意しています。職員は、子どもが自ら遊びを選択できるよう、どこに何があるかひと目でわかるように環境を整えています。園では、剣道・リトミック・絵画・体操・お話会など様々な活動を取り入れています。園外活動では、近隣の茅ヶ崎公園生態園で植物・鳥・魚・昆虫などから季節を感じています。公園の管理者から植物や昆虫の飼育方法を聞くなど、自然と触れ合うことができるよう工夫しています。</p>	

<p>A-1-(2)-⑤ 【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 0歳児が、長時間生活する場所であると意識し環境を整えています。職員は、複数担任制で一人ひとりの子どもと関わりが十分持てるよう心掛けており、子どもが安心して過ごせるよう配慮しています。保育室は十分な広さが確保されており、子どもの動線に合わせて4つのスペースに分けています。遊ぶ・お着替え・お昼寝・食事とそれぞれの活動スペースが分かれていることで、子どもたちの場面の切り替えがしやすいようにしています。保護者とは、園や家庭での様子など常に情報共有しており、子どもが安定した生活が送れるよう努めています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 1歳児クラスは、低月齢と高月齢の子どもの保育室を別にしています。年間計画は同じ内容ですが、それぞれ保育室で評価・振り返りをしています。職員は、子どもの自我の育ちを受け止め、子どもがしたいという気持ちを尊重し好きな遊びがおこなえるよう援助しています。子どもが、自分で玩具や絵本を選択できるよう子どもの目線に合わせて整理しており、子どもが自由に好きな遊びができるように配置しています。保護者とは、子どもの様子や体調、トイレトレーニングの時期などについて送迎時や連絡帳などで相談し、情報共有し家庭との連携が図れています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 園では、剣道・リトミック・体操などの動の活動と、絵画・お話会などの静の活動をバランス良く取り入れています。職員は、3歳以上児の保育において基本的な生活習慣を身に付け、集団のなかで色々な遊びや活動に主体的に取り組めるような声かけをしています。また職員は、子どもが興味関心のある活動に取り組めるような環境を整えており、過剰に声をかけず見守るよう心掛けています。保護者には、降園時にその日の活動内容や様子をドキュメンテーションにして掲示しており、送迎時の会話などから情報共有しています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑧ 【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 配慮が必要と思われる子どもについては、子どもの状況や必要な配慮については職員会議で共有し、個別指導計画を作成しております。計画に基づき、子どもの状況に合わせて保育をおこない、園全体で見守り対応しています。また、療育センターと連携を図り、巡回訪問の際に相談し助言を受けています。職員は、障がいのある子どもの保育について研修を受講するなど必要な知識や情報を得て職員間で共有し、理解を深めています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑨ 【A10】 それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 子どもの在園時間を考慮して、個々の状況に合わせて安心してゆったりと家庭的に過ごせるよう配慮しています。現在、延長保育を利用している子どもが少ないため、職員が一人ひとりの子どもと向き合って過ごしています。職員同士は、子どもの様子などを伝達表と口頭で申し送りをしており、保護者に子どもの様子を伝えて家庭との連携が図れるよう心がけています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑩ 【A11】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 全体的な計画と5歳児の年次指導計画の中に小学校との連携について記載しています。職員は、幼保小連絡会に参加し情報収集しています。子どもたちは、遊びの中で文字や数字に触れ、時間を意識して活動しています。また、遊びで使うクレパスやのり・粘土板など各自でお道具箱の管理をするなど就学を見通した取り組みをしています。保護者には、懇談会や個人面談などで、就学後の子どもの生活などを伝えるなど、見通しが持てるよう働きかけています。園長の責任のもと、保育所保育要録を作成しています。</p>	

A-1-(3) 健康管理	第三者評価結果
<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>子どもの健康管理は「すくすくカード」にて、一人ひとりの子どもの健康状態を把握・管理して保護者と連携を図っています。看護師は、クラスを巡回し、子どもの日々の健康状態の把握や、既往症や予防接種の状況など管理しています。子どもの体調悪化や怪我した時には看護師が保護者に状況説明をしています。職員と看護師は連携が図れており、子どもへの手洗い・歯磨きなどの保健指導に関することは看護師が担っています。職員は、乳幼児突然死症候群に必要な取り組みをおこない、保護者にも掲示などで情報提供しています。</p>	
<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>全園児、年2回の健康診断・歯科検診と年1回の心臓検診を受けており、3歳児は視聴覚検診、3・4・5歳児は尿検査も受けています。歯科検診では、3・4・5歳児は染め出しで歯磨きチェックをしており、子どもに視覚的にわかりやすいようにブラッシング指導をしています。保護者には、健診結果を伝え家庭での生活や健康管理にいかせるよう連携しています。</p>	
<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>園では、アレルギー疾患のある子どもは、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」に基づき、適切で安全な対応に努めています。アレルギー疾患のある子どもの受け入れは、医師の指示書のもと、保護者・職員・看護師・栄養士とで連携し子どもの状況に応じた適切な対応をおこなっています。アレルギー疾患児への給食の提供は食器を色分けし、厨房では栄養士が、保育室では職員間でダブルチェックの確認を徹底しています。食事中は担当職員が専用エプロンの着用をしており、職員間で役割分担を明確にしています。</p>	
A-1-(4) 食事	第三者評価結果
<p>【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>園では、「おなかがいっぱいおいしく食べる」を基本にした活動を考え保育に努めています。栄養士は、年間食育計画のテーマを定めており、2021年度は郷土料理、2022年度は世界料理、2023年度は絵本に出てくるメニューに取り組んでいます。毎月の給食日より、今月の絵本のメニューを紹介しており、絵本の内容から展開する料理の説明をして献立に反映させています。5歳児は、お米作りに挑戦しており、収穫後に普段のご飯と、自分たちが収穫したご飯の食べ比べをしており、食についての関心を深めています。保護者には、食育活動の様子をドキュメンテーションを掲示し伝えています。</p>	
<p>【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>職員は、一人ひとりの子どもの発育状況や体調などを把握し、栄養士と連携を図っています。栄養士は、各クラスの喫食状況などから子どもの好き嫌いを把握し献立や調理方法を工夫しています。栄養士が中心となり食育計画を立て、職員と協同して食育活動に取り組んでいます。行事食では、いつもと違う野菜の切り方で視覚から楽しめるよう工夫し、バイキング形式にして自分で盛り付けて完食することで達成感が味わえるよう取り組んでいます。また、旬の野菜や果物を取り入れ、季節感のある献立にしています。衛生管理はマニュアルに基づき適切に取り組んでいます。</p>	
A-2 子育て支援	
A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
<p>【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>家庭との日常的な情報交換は、連絡帳や送迎時の対話によりおこなっています。職員は、保護者には積極的に挨拶や声かけをするなど、日頃から話しやすい関係性づくりに努めています。保護者には、その日の活動内容を入口に掲示しており、写真など取り入れ子どもの様子も併せて伝えています。毎月の保育内容については、園だよりやクラスだよりなどでお知らせしています。家庭の状況や保護者からの情報内容は必要に応じて記録しています。</p>	

A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<コメント> 園では、保護者との会話や連絡帳などを通して信頼関係を築くよう努めています。保護者とは、年2回の個人面談をおこなっており、子どもの発達過程や子育てに関する悩みなどは、面談以外でもいつでも相談に応じる体制を整えています。相談内容により、看護師や栄養士と連携を図り保護者支援に取り組んでいます。	
【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a
<コメント> 職員は、虐待等権利侵害を早期に発見しやすい立場にあることを自覚し、子どもの心身の状態、家庭での養育状況について把握するよう努めています。気になる行動や、言動がある場合は担当職員と園長・主任・看護師とで協議をおこない、組織的に対応しています。日頃から、関係機関とは会議などで情報共有しており、連携を図るための取り組みをおこなっています。職員は、人権擁護に関する研修を受講しており、共通意識のもと保育に努めています。	

### A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
<コメント> 園では、日々の保育について気になる点などは、職員会議で情報共有しています。また、年度末に年間計画に基づいた、子ども主体の保育がおこなわれているか評価・反省を振り返る仕組みがあります。職員は、法人が作成した自己評価表により自身の保育を振り返っています。また、横浜市の自己評価表に基づき園の評価に取り組んでおり、評価・振り返りをおこない次年度計画に反映させています。職員は、計画的に研修を受講しており、研修で得た知識は職員間で共有し、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいます。	